

地域密着型サービス評価の自己評価票(ユニット名：ぽえむ)

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	地域密着型サービスの考え方にに基づき、その人らしくを常に追求し、理念を構築している	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	理念を掲示し、ホームは日常生活の場であるということを考え、日々理念の共有化に取り組んでいる	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	ご家族には契約時に「重要事項説明書」の中で方針として記載されているものを説明配布し、地域の皆様方には地域運営推進会議や交流会等の機会を利用し説明等に取り組んでいる	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	地域交流会の開催を実施し交流を深めているが、日常的な付き合いについては希薄な点もある	○ 気軽に立ち寄れるような開放的な雰囲気作りを心がける
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域運営推進会議等に地域の人々の参加を促し、また、地域交流会の開催にて地域の人々との交流を図り、更に、自治会にも参加している	○ 地域運営推進会議等に地域の人々の参加がまだまだ少ない点が見られる為、参加の促しの強化を図る必要がある

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居希望者等に対してなどホームをオープンにして見学・相談に応じている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価から見られる問題点及び外部評価にての指摘事項について、話し合いのもと改善に取り組んでいる		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催して各行事について報告し、出席者からの意見・指摘事項等をサービス向上に活かしている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市に対しての各報告について、極力市の担当者に直接会い報告し、また、介護相談員の来所時に意見等を聞きサービスの質の向上に取り組んでいる		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	全職員が理解しているとは言いがたい	○	勉強会等を開き、管理者を含め全職員が制度の理解と活用できるように取り組みを深めたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修会及び外部の研修会に積極的に参加し、参加職員主導による全職員での勉強会を開き、問題点等職員全員が意識を持って虐待防止に努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書等の十分な説明を実施し、内容についての疑問点等に対しては納得いただくまで説明し、契約後における問題点や疑問点等についても十分な説明・相談に応じている		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の意見が誰でもが随意に伺えるよう制約など一切排除し、表された意見等は運営に反映させている。また、介護相談員等に表された意見等もよく聞き運営に反映させている		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「感感だより」の発行、二ヶ月に一回の「お手紙」の発送、電話等により報告を実施している	○	ご家族とのお茶飲み会等ご家族とご利用者が一緒になる時間(全家族一緒ではなく、一組づつの家族単位で)を増やし、暮らしぶりなど直接見て頂ける機会を考えていきたい
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関に、アンケート式による意見等を記入して頂く用紙を設置している。また、地域運営推進会議にご家族や地域の皆様に出席して頂き意見・注意点などを聞き、それらを運営に反映させている	○	アンケート用紙の設置が徹底されていない点が見られるので、「感感だより」や家族会等の機会を利用して周知徹底させていきたい
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議(月に一回実施)に意見等を聞き、また、随意に出ている意見等は職員会議時に発表し、職員全員で検討し運営に反映させている。緊急を要するものについては、臨時に会議等召集して対応している		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	可能な限り調整に努めている。勤務表作成時に要望等聞き入れ調整に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者と個々の職員間での話し合いが持たれ離職率は低下している。異動等の発生が出た場合は、新職員等に対しては勤務にゆとりを持たせ、ご利用者全員の生活様式や生活等十分に説明してご利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	地域運営推進会議や地域交流会等の機会を利用して更なる交流を図り、サービスの質を向上させていく取り組みに努めたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	同上	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自社の利用を押し付ける事無く、ご家族・ご本人が求めているものと自社のサービス提供内容に食い違いがあった際には、他のサービス利用もしくは市への相談をお勧めしている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能な限り利用前に見学をして頂き、場の雰囲気などを味わって頂ける時間を設けている。また、希望があれば、いきなり入所ではなく、通所や体験入居で慣れて頂いてから入所して頂く等対応に努めている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の中で職員と共に家事・園芸等を行っていただき、時にはご利用者からの教示を受けたりして喜怒哀楽を共にしている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の近況報告などの際に喜怒哀楽を共にしている。また、その際にこれからのご本人の支え方を一緒に考えることもある		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	無理に交流したり離れたりせず、ご本人とご家族にとってよりよい距離感を考えながら、関係が築けるよう支援している		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の馴染みの人や場所などを職員の理解不足がある	○	ご本人、または、ご家族より情報収集をし、より理解に努め支援に結びつける
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者同士の仲・不仲を理解し、食堂内等のテーブルの配置を考慮したり、行動時間の共有を勧める。他者との付き合いが苦手なご利用者に対しては、職員が間に入りご利用者同士の関係を築いている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	断ち切らないよう・断ち切られないよう要望があれば対応したり、付き合いを大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望・意見を書式化し、いつでも職員が見られる状態にしておき、職員一人一人が把握できるように努めている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	同上		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝のバイタルチェックや足の運び・顔色からの身体の状態・有する力の把握、声のトーン・顔つきにての心の状態の把握に職員一人一人が努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人・ご家族からの要望、職員・看護師からの意見等を取り入れた計画書を作成している		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に一度の会議の場を設け計画を見直し、職員・看護師同士で意見をまとめている。必要があれば新たな計画を作成している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録等に記入して職員間の情報共有を図り、また、月に一度の会議の際に、ケアプランの見直し等話し合いをしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	HPドクターを希望に応じて受診のお手伝いをさせて頂いている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	簡単な体操の実施等ボランティアの依頼や、避難訓練など消防に協力を依頼している	○	ご本人の意向や必要性など更なる聴き取りなどを行い、可能な限り地域資源を利用して支援を進めるよう努めたい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のグループホーム等訪問して、ケアマネジャー等連絡の場を持っている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ケアマネジャーが時には地域包括支援センターを訪問している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回のホームドクターの往診が行われている。この往診の結果において更なる検査等必要な場合は、ご本人様やご家族様にその旨話をして他の病院での受診も行っている		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	相談できる専門医がおり、認知症についての講演など多くして頂いている		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が常勤し、昼夜を問わず支援体制が整っている		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	常勤看護師が常に病院関係者と連絡を取り合い、情報交換等行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	常勤看護師が常にご家族に説明をしている。また、ご家族を含め全職員に対して常勤看護師の指導のもと、重度化や終末期に向けた方針の共有を図っている		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	常勤看護師によりホームドクターへの連絡はもとより、提携病院への搬送等できる限りの支援ができるよう準備を行っている		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移転先に対してサマリー等で確実な情報提供を実施し、ダメージを防ぐよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者一人一人に合った対応や言葉かけを行い、その人らしいを損なわない様に務めている。また、記録等でプライバシー等を損ねるような個人情報の取扱いは行っていない	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	言語を発するのが困難なご利用者に対しては、出来る限り二者択一で答えられる質問を提供している。また、職員があまり忙しそうにせず、ご利用者が話しかけをしても大丈夫だという環境を作る様努めている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の意見を優先し、今何をしたいのか、今どのようにしたいのか等を尊重し、出来る限りご利用者のペースで生活をして頂いている	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご利用者行きたくなくなった時に理容・美容に行くように努めている。身だしなみ(服装等)は、職員が気候や気温などを考慮し選ばせて頂いている	○ 出来る限り、ご本人が着たい服が着れる様支援する
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者が今日何を食べていのかなど、意見を取り入れながら食事を提供している。また、ご利用者のレベルに合った食事作り等の手伝いをして頂き、ご利用者と職員との意思の疎通などを図っている	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご利用者が望むようなものを出来る限り提供するように心がけているが、ご本人の嗜好を全て把握できていない	○ ご本人やご家族からの情報収集を行い、より理解を深める

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ご利用者一人一人の排泄パターンを把握し、尿意・便意が無いご利用者には職員がトイレ誘導を行い、出来る限りトイレでの排泄が出来るよう努めている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご利用者に声かけを行い、ご利用者の希望に沿う様努めている		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご利用者のその時の状況に合わせて、昼寝等提供するよう努めている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者一人一人のレベルに合った役割を提供するよう努めている。また、天気の良い日などは、外に散歩に行くなどの気晴らしも出来る限り行っている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者のレベル等考慮し、また、ご家族の希望などにより金銭管理は職員が行ったいる。買い物等同行いた頂いた場合などは、支払い等して頂ける様努めている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来る限り天気の良い日や、利用者の健康状態を考慮し、散歩・買い物等外出の機会が増えるよう努めている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族の協力をいただき、普段いけない所などの外出支援も取り入れている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的にご利用者の担当職員が近況報告(写真添付)を含め、ご家族宛に手紙を出している		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や友人・知人が気軽に訪問できるように、玄関を施錠などせずいつでも開放的にしている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行動範囲に制限をせず、のびのびとした生活を送って頂くように取り組んでいる		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間のみ施錠するが、各居室は昼夜を問わず施錠せず、自由に庭に出られたり出来る生活をして頂く様取り組んでいる		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間にご利用者の居場所を常に確認しながら安全に過ごして頂き、夜間もプライバシーに配慮して巡視をしている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご利用者一人一人の状態に合わせて、物品の安全な配置や使用目的を考慮しながら取り組んでいる		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	リスクマネジメントを念頭に置き、常にご利用者一人一人の見守り強化に努めている	○	事故防止対策委員会等を設置し、事故防止に取り組んでいきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	介護員ができる最低限の応急手順は、会議等で話し合っている		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に防災訓練を実施し、災害時に必要な非常食等を備蓄している		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	各ご利用者の病状の変化や、起こり得るリスクについては、必ずご家族への連絡を徹底している		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常にご利用者の様子を観察して、異常がある際は看護師へ報告し、他の職員へも記録ノート等で情報を共有している		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は各ご利用者の薬の目的や用法・用量の理解に努め、服薬の支援をしている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘に対する食事の工夫やご利用者一人一人の排便をチェックをして、便秘をしていないかを常に観察している		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きをしている	○	歯科衛生士の指導で、口腔内の清潔保持の強化をしていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分とも個人ごとに量を把握し、不足している人には声かけにより摂取してもらっている。また、嚥下困難者などには、お粥・きざみ食・とろみ剤にて提供している	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	二次感染防止の為、職員の手洗い、必要な時には手袋の着用の徹底を図っている。ご利用者の状態は、バイタルチェック・排泄チェック・入浴時観察にて把握。異常時には看護師に随時報告している	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は2～3日置きの買い物で極力長期保存しない様にし、賞味期限・消費期限の厳守を行っている。調理用具は夜間帯に、布巾・まな板等漂白を行っている。更に、チェック表を用いて衛生管理に努めている	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	外玄関には花があり、内玄関には、来所者にとって解りやすく掲示物の貼付などがある	○ 外にはっきりとした看板等が必要に思われる
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間では、生活上の音(台所での調理の音)・光(日中は日光を取り入れ、夜間はカーテンを閉め遮光する)を採り入れている。また、正月飾りなどして季節感を出しているが、しかし、季節の花・小物等が少ない	○ 季節の花・小物など毎月変えて、季節感を出す様に努めたい
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者一人一人に落ち着ける決まった場所がある	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	ご本人の馴染みのある物や、ご家族の写真などそれぞれ 飾ってある。ベット、布団、畳などもご本人の使い慣れて物を 使用している		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	室温はエアコンにより調整、気候により換気も行い、ご利用 者が望む室温にも注意している		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	生活空間は広く、車椅子でも自由に安全に移動できるス ペースが確保されている。また、手すり(廊下・トイレ・浴室)に 設置され、安全に生活できるようしている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	ほとんどのご利用者が、自室、食堂、トイレ等生活機能上の 空間を理解し自由に移動している。自室等が判らなくご利用 者に対しては、ドアに写真を貼るなどして対応している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	外や中庭など生活感はあるが、植木鉢などに花等の植物が 定期的に植えられる事が少ない	○	ご利用者の手により、植木鉢や中庭に花や植物を植え、水 遣り等などして頂き、ご利用者が楽しむ事を更に増やした い

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家族・地域の方々がもっとも静かな環境で生活できる場に、ご利用者一人ひとりのありのままを受け入れ、普通の生活を共にしながら、ご利用者の居場所や役割を見出し、生きることへの実感と希望が持てるケアサービスを心がけています。また、ご家族の方がいつでも気兼ねなくご利用者に会いに来ていただけるような雰囲気のあるホームを心がけています